

.....  
卷 頭 言  
.....

## 再び副会長に就任して

坂 田

まこと  
亮



この平成元年度は再び副会長に、そして次の平成2年度には会長という大役をお引き受けすることになりました。身に余る光栄ではありますが、まさに 大厄 であり、身の引き締る思いであります。

ときあたかも、この11月末には、“創立10周年”を迎えることになりました。その“10周年事業”の委員長も、役職からお引き受けすることになりました。その主なる事業は次の通りであります。

表面科学国際シンポジウム（岩澤康裕実行委員長）

会誌特集号発行（杉井清昌編集委員長）

記念図書出版（宮崎栄三，真下正夫，岡田正和歴代委員長，副委員長）

論文賞（河津 璋委員長）

10周年記念式典（福田安生実行委員長）

この内でも国際シンポジウムは特に難事業で、内外の著名な講師を迎え、プロシーディングも作るために多大の経費が必要であります。これと会誌特集号発行のための費用は大略1000万円を必要とします。これは主に一口20万円の企業による団体参加登録料にて賄う必要があります。したがって集める目標口数は“50口”であります。これは容易なことではありません。荷に余る事業ではありますが、理事会にてこれらの実行が決まり、この事業をやり遂げたいという情熱に応えるためには、会員諸氏の強力なご協力なしには成就致しません。

さらに雑誌増冊、または法人化の要望もあり、これらを可能にするためには財政基盤の充実が是非とも必要であります。そこで“運営財務委員会”の設置が必要となり、この委員長もお引き受けすることになりました。

これら一連のことは、まさに学会創立当初の困難さにも似ております。その当時の“難”をやっと乗り越えて、安定成長を迎えられるかと思っておりましたのに、とてもそんなのんびりしたことをいってはおれない次第であります。

“表面”のない固体も液体もありません。“表面”を制するものは、工業を制するといっても過言ではないほど、“表面科学”は重要であります。この表面科学の発展が日本の工業力を押し上げる大きな原動力となることを確信し、会員の皆様と、ともどもに当学会を拡大成長させたいと念願致します。それには繰返しになりますが理事、評議員、会員そして事務の方々のご協力が是非とも必要であります。どうか絶大なご支援を賜りたく、宜しく申し上げます。

（慶応義塾大学理工学部）